

## 熊本県が育成したいぐさ有望品種「しらぬい」

農業研究センター い業研究所 育種部

### 研究のねらい

本県における主要品種である「岡山3号」や「くまがわ」は、7月10日以降収穫の普通刈栽培（晩刈）において変色いが多くみられ、製織した畳表に黒筋が発生し色沢が劣る。

そこで、普通刈栽培向け適品種として、変色いが少なく高品質・多収品種を育成し、種苗法による品種登録を受けるとともに県奨励品種に採用した。

### 研究の成果

#### 「しらぬい」の特性

1. 生育の早晚性は、後期多けつ性を示す晩生種で、暖地において5月以降の伸長、分けつが旺盛となる夏まさり型の生育を示す。
2. 生育は、「岡山3号」に比べて、分けつがやや優り、伸長はほぼ同等で、多収品種である。7月中旬以降の収穫では、有効茎数、長茎数とも「岡山3号」を上回る。
3. 茎色は澄んだ緑色で、茎の太さ、茎の硬軟、先枯及び着花等の形質は「岡山3号」とほぼ同程度である。茎の太さの揃いや充実は「岡山3号」より良好であり、特に変色い（テレ・ヤケ）が少なく色沢に優れる。
4. 加工特性は、中細茎で太さの揃いが良く、充実と色沢が良好であるため、むしろ面が美しく上級の畳表原料として極めて好適である。
5. 普及地域並びに栽培型 一般田（肥沃田～中位生産力田）の普通刈栽培
6. 早刈・中間刈栽培やカキガラ田、黒ボク田並びに低位生産力田では、「しらぬい」の良質多収性が十分に発現されない場合がある。

表1 収量の比較（12月中旬植・7月中旬刈、昭和48～58年産）

項目 品種名	乾茎重	長 茎 重		対 標 準 比		
		105cm	120cm	乾茎重	105cm	120cm
	kg/a	kg/a	kg/a	%	%	%
しらぬい	150.3	110.6	78.3	102.1	103.5	104.3
くまがわ	147.0	109.8	80.8	99.9	102.7	107.6
岡山3号	147.2	106.9	75.1	100	100	100

表2 変色い発生率の比較（12月中旬植・7月中旬刈、昭和56～62年産）

品種名	120cm以上	105～120cm
しらぬい	33.7 %	39.4 %
くまがわ	50.4	52.9
岡山3号	67.0	63.4

無染土乾茎を調査

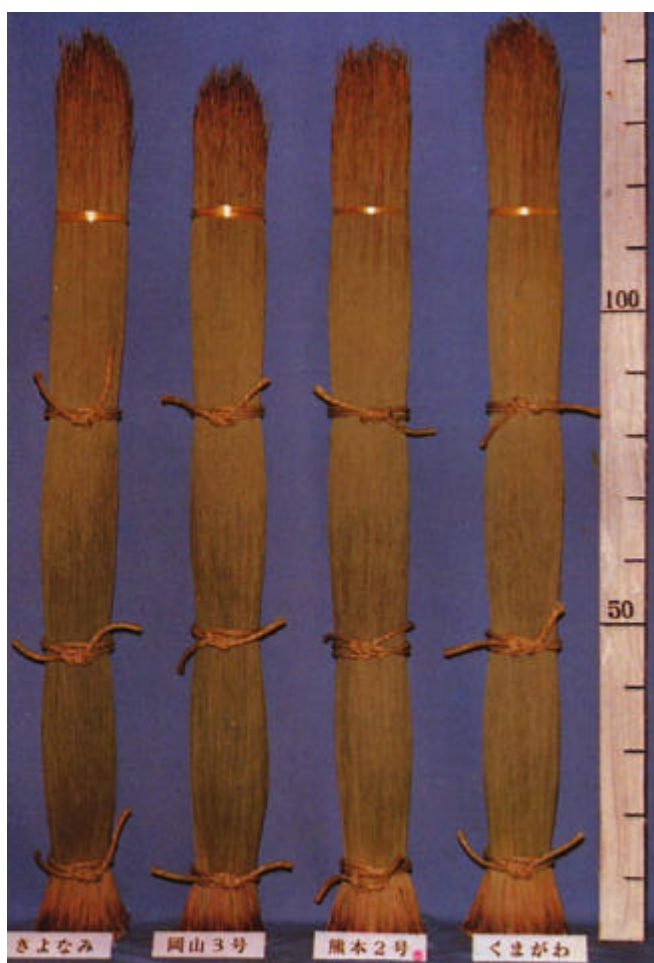
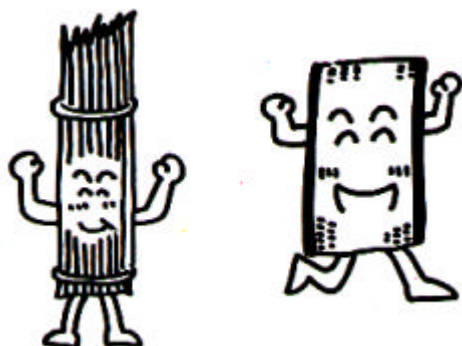


写真 他の品種・系統との比較